

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 結果の抜粋

留意点

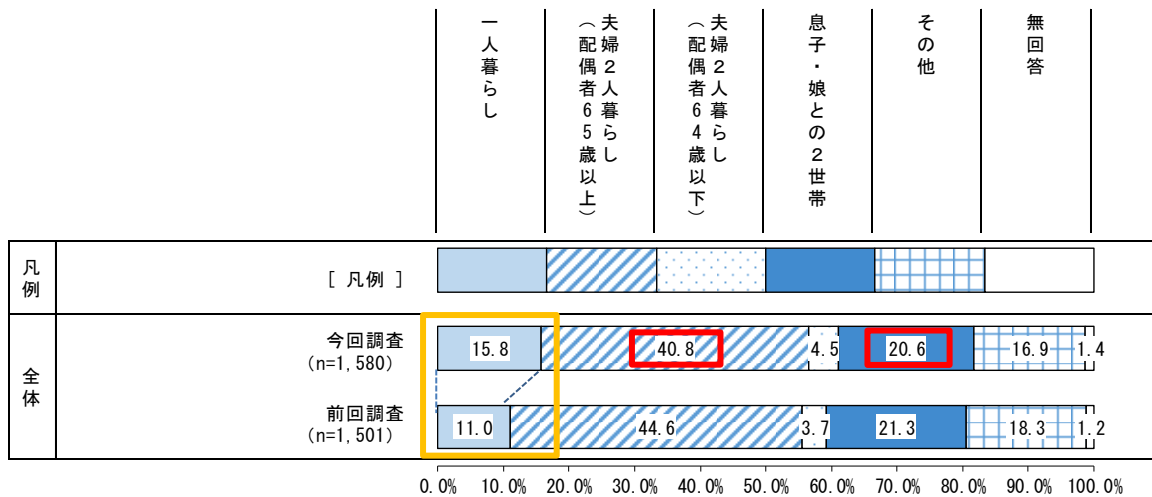
分析結果を見る際の留意点は以下のとおりです。

- ① 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
- ② 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合があります。
- ③ 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer = いくつでも)、3LA (3 Limited Answer = 3つまで)と記載しています。また、不明(無回答)はグラフ・表から除いている場合があります。
- ④ 各種リスク判定の結果は、母数から判定不能を除いています。
- ⑤ 今回調査の新規設問(前回調査で設問がない場合)は、設問文の前に**新**と記載しています。

1. あなたのご家族や生活状況について

●問1.1 家族構成を教えてください。(○は1つ)

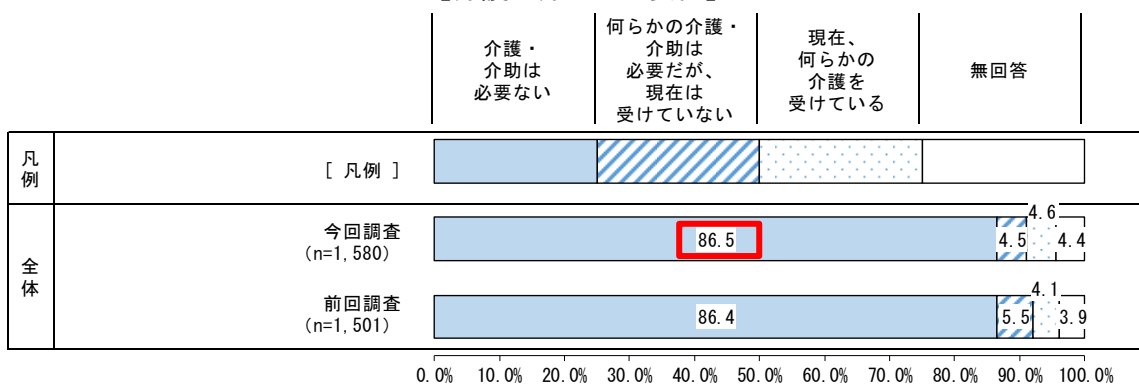
- 家族構成について、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が40.8%で最も高く、次いで「息子・娘との2世帯」が20.6%となっています。
- 前回調査と比べ、「一人暮らし」の割合が上昇しています(11.0%→15.8%)。一方、「高齢者の夫婦2人暮らし(40.8%)」や「息子等との2世帯(20.6%)」が減少しているため、それらの影響が関連していると思われます。



●問1.2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

- 介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が86.5%で最も高くなっています。
- 前回調査と比べ、大きな変化はありません。

【介護・介助の必要性】

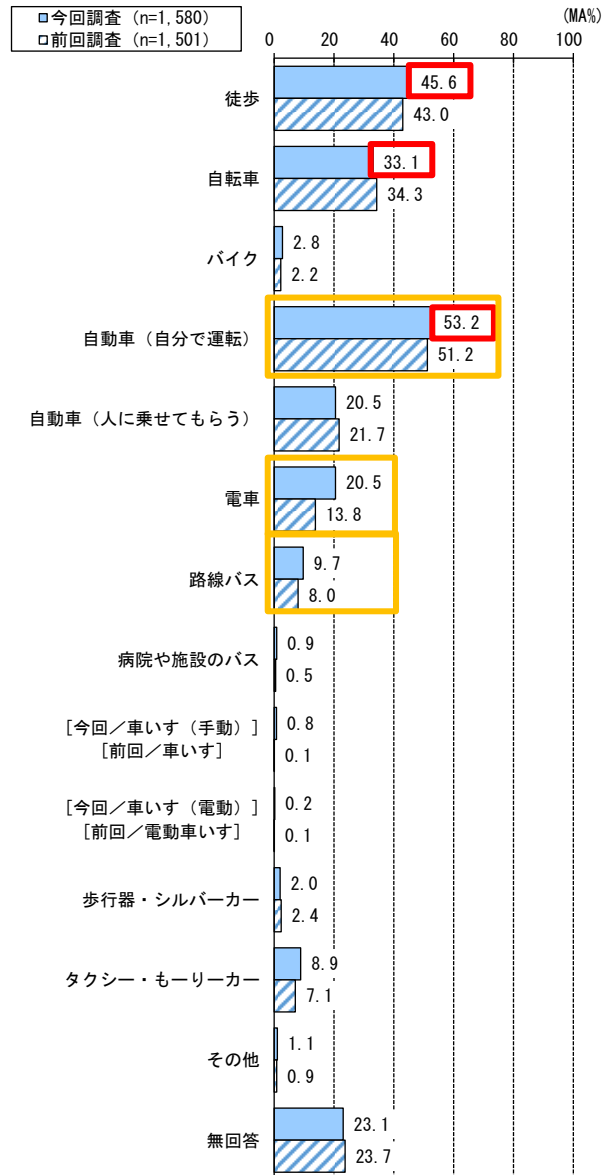


2. からだを動かすことについて

●問2.9 外出する際の移動手段は何ですか。(いくつでも○)

- 外出時の主な移動手段について、「自動車（自分で運転）」が 53.2%で最も高く、次いで「徒歩」が 45.6%、「自転車」が 33.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「電車」の割合が上昇しています（13.8%→20.5%）。
- 全体的に、「電車」や「路線バス」の公共交通の割合が上昇傾向にあるものの、「自動車（自分で運転）」についても上昇しています。

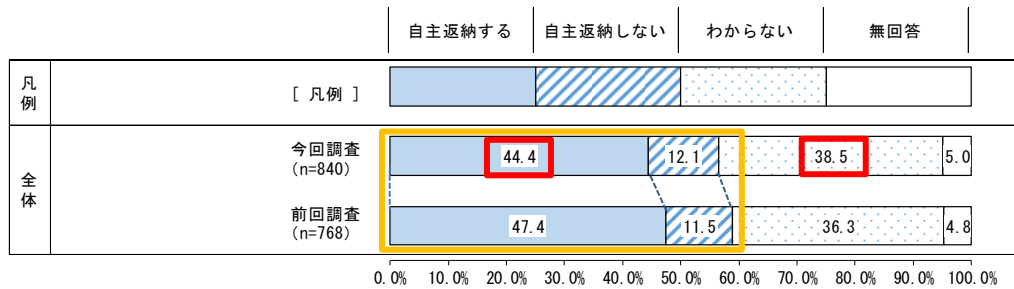
【外出時の主な移動手段】



- 問2.9-5 運転免許証の自主返納制度がありますが、あなたは将来的に自主返納しようと思われませんか。(○は1つ)

- 運転免許証の自主返納の意向について、「自主返納する」が44.4%で最も高く、次いで「わからない」が38.5%となっています。後段削除
- 前回調査と比べ、「自主返納しない」の割合が上昇しています(11.5%→12.1%)。一方、「自主返納する」の割合が減少しています(47.4%→44.4%)。
- 全体的に、自主返納の意向は減少傾向にあります。

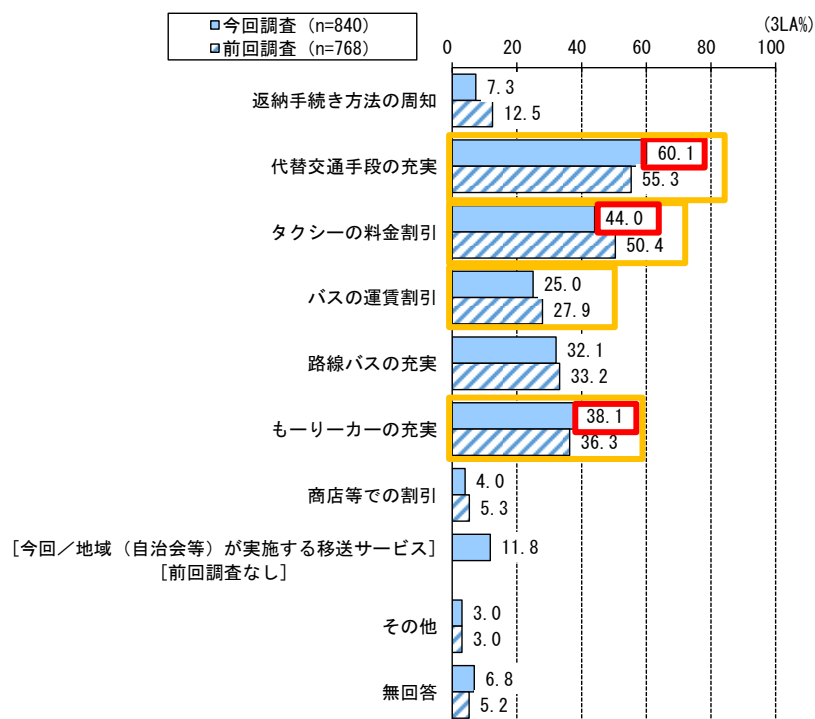
【運転免許証の自主返納の意向】



- 問2.9-6 あなたが、今後運転免許証を返納することになった場合、特にどのような支援等が必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 免許返納後に必要となる支援について、「代替交通手段の充実」が60.1%で最も高く、次いで「タクシーの料金割引」が44.0%、「もーりーカーの充実」が38.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「代替交通手段の充実」(55.3%→60.1%)、「もーりーカーの充実」(36.3%→38.1%)の割合が上昇しています。
- 一方、「タクシーの料金割引」(50.4%→44.0%)、「バスの運賃割引」(27.9%→25.0%)の割合が減少しています。
- 全体的に、公共交通の費用助成以上に、移動手段の確保を求められる傾向にあります。

【免許返納後に必要となる支援】

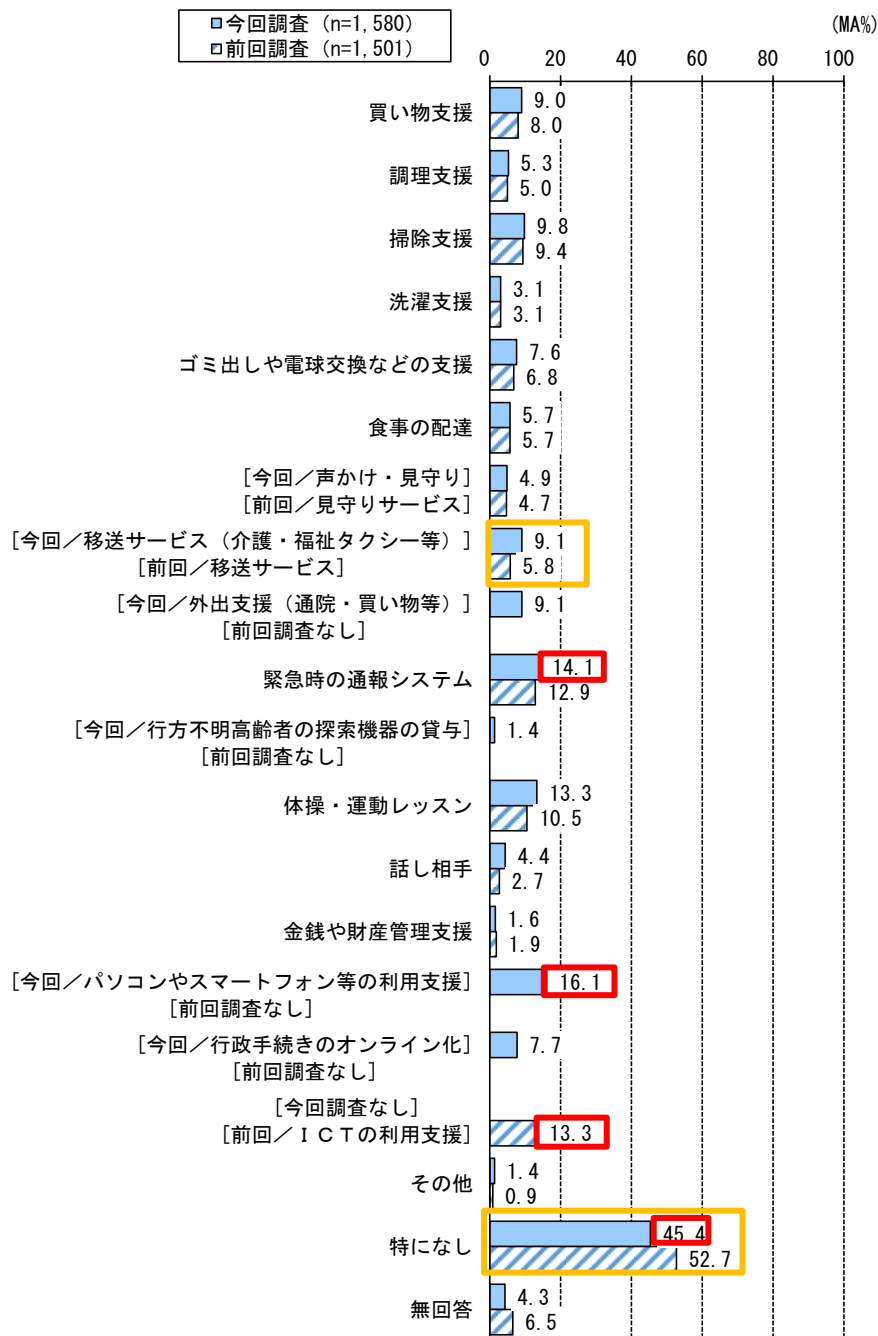


3. 毎日の生活について

●問4.9 日常生活を送る上で、どのようなサービスや支援を利用したいですか。(いくつでも○)

- 利用したい生活支援サービスについて、「特になし」が45.4%で最も高く、次いで、新規項目の「パソコンやスマートフォン等の利用支援」が16.1%、「緊急時の通報システム」が14.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」の割合が上昇しています（5.8%→9.1%）。一方、「特になし」の割合が減少しています（52.7%→45.4%）。
- 全体的に、「パソコンやスマートフォン等の利用支援（16.1%）」や、「ICTの利用支援（13.3%）」の割合が高く、ICT関連の支援について求められる傾向にあります。

【利用したい生活支援サービス】

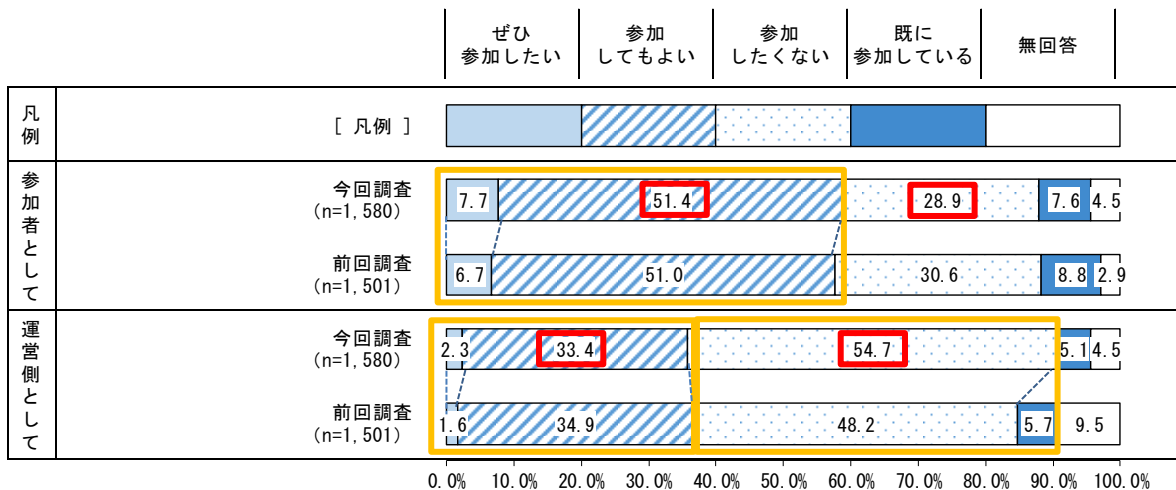


4. 地域での活動について

- 問5.2 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者・または運営側として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

- 地域づくり活動への参加意向（参加者）について、「参加してもよい」が 51.4%で最も高く、次いで「参加したくない」が 28.9%となっています。
- 地域づくり活動への参加意向（運営側）について、「参加したくない」が 54.7%で最も高く、次いで「参加してもよい」が 33.4%となっています。
- 前回調査と比べ、参加者としては、「ぜひ参加したい」と「参加してもよい」の割合が上昇しています（57.7%→59.1%）。
- 一方、運営側としては、「参加したくない」の割合が上昇しています（48.2%→54.7%）。
- 全体的に、地域づくり活動について、参加者として「参加したい」が5割を超えていますが、一方、運営側として「参加したい」は3～4割となっています。

【地域づくり活動への参加意向】

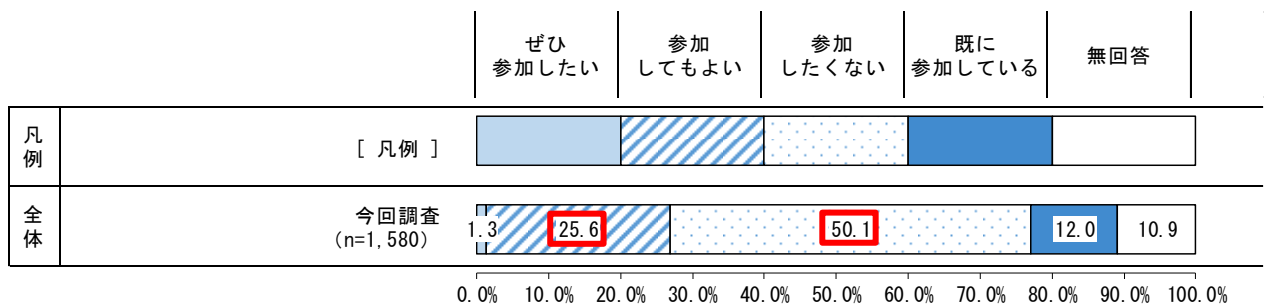


新

- 問5.4 ボランティア活動をしたいですか。(○は1つ)

- ボランティア活動の実施意向について、「参加したくない」が 50.1%で最も高く、次いで「参加してもよい」が 25.6%となっています。

【ボランティア活動の実施意向】

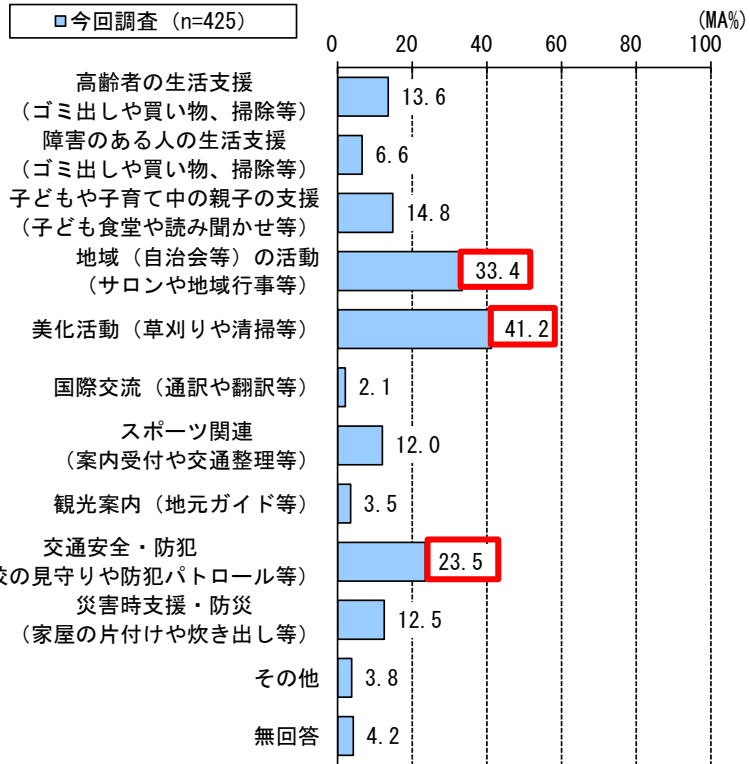


新

●問 5.4-1 どのような分野のボランティアをしたいですか。(いくつでも○)

○ 希望するボランティア分野について、「美化活動（草刈りや清掃等）」が 41.2%で最も高く、次いで「地域（自治会等）の活動（サロンや地域行事等）」が 33.4%、「交通安全・防犯（登下校の見守りや防犯パトロール等）」が 23.5%となっています。

【希望するボランティア分野】

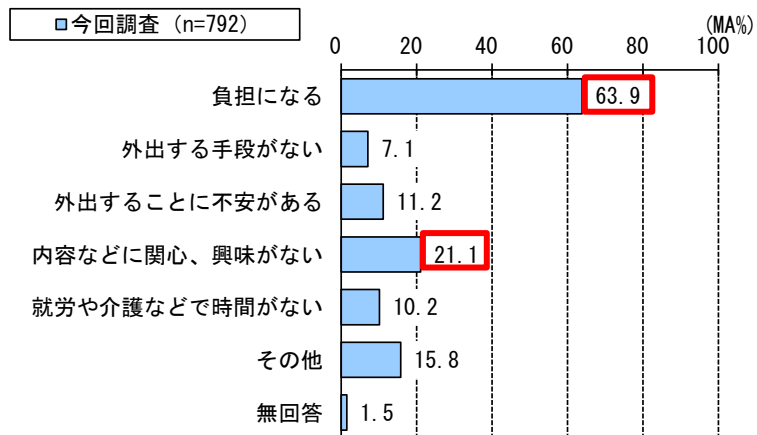


新

●問5.4-2 参加したくない理由は何ですか。(いくつでも○)

○ ボランティアに参加したくない理由について、「負担になる」が 63.9%で最も高く、次いで「内容などに関心、興味がない」が 21.1%となっています。

【ボランティアに参加したくない理由】

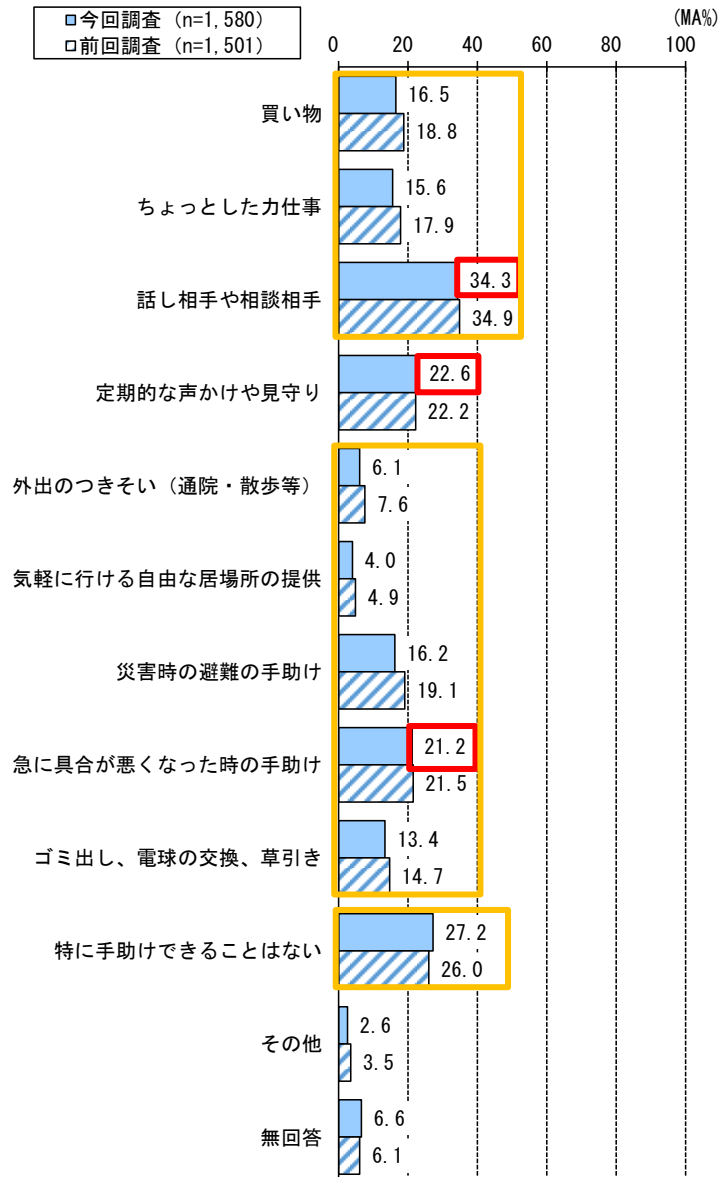


5. 助けあいについて

●問6.9 あなたご自身をご近所で手助けや協力ができることがありますか。(いくつでも○)

- 近所で手助けや協力できることについて、「話し相手や相談相手」が 34.3%で最も多く、次いで「定期的な声かけや見守り」が 22.6%、「急に具合が悪くなった時の手助け」が 21.2%となっています。
- 前回調査と比べ、「特に手助けできることはない」の割合が上昇しています (26.0%→27.2%)。
- 全体的に、各項目の割合が減少傾向にありますので、近所で手助けや協力できることが難しくなっている傾向にあります。

【近所で手助けや協力できること】



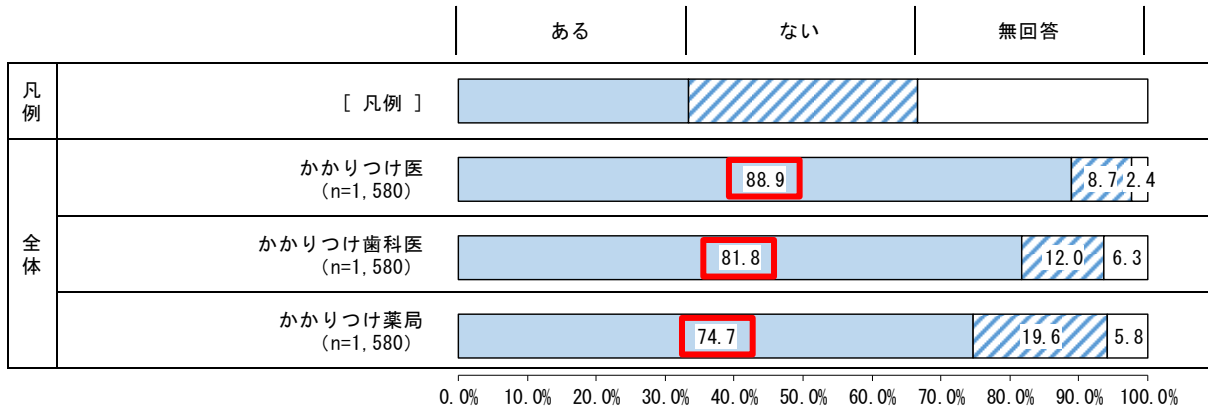
6. 健康について

新

●問7.8 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局はありますか。(○は1つ)

- 「ある」は、かかりつけ医で 88.9%、かかりつけ歯科医で 81.8%、かかりつけ薬局で 74.7%となっています。

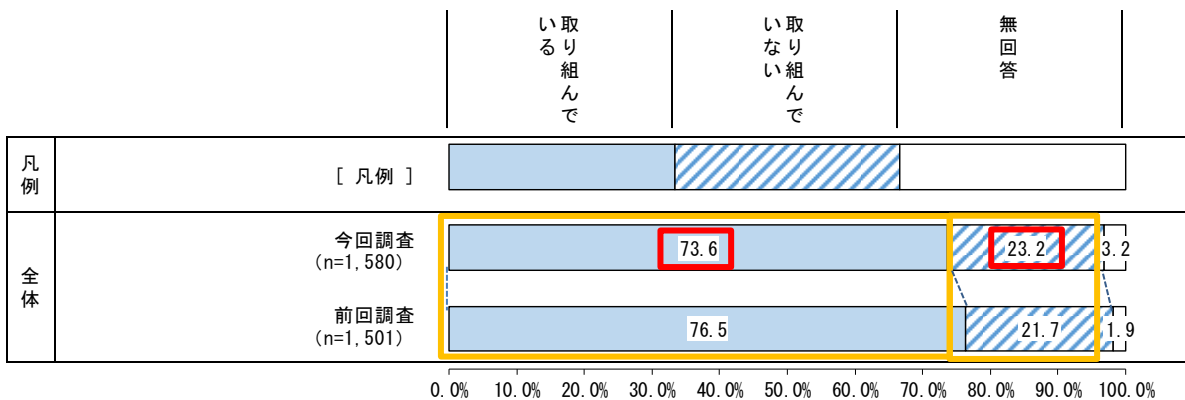
【かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局の有無】



●問7.9 介護状態にならないように、介護予防や健康づくりに取り組んでいますか。(ひとつだけ○)

- 介護予防・健康づくりの取組状況について、「取り組んでいる」が 73.6%、「取り組んでいない」が 23.2%となっています。
- 前回調査と比べ、「取り組んでいない」の割合が上昇しています (21.7%→23.2%)。一方、「取り組んでいる」の割合が減少しています (76.5%→73.6%)。
- 全体的に、介護予防や健康づくりへの意識が減少しているものの、7割以上が介護予防の取組を行われています。

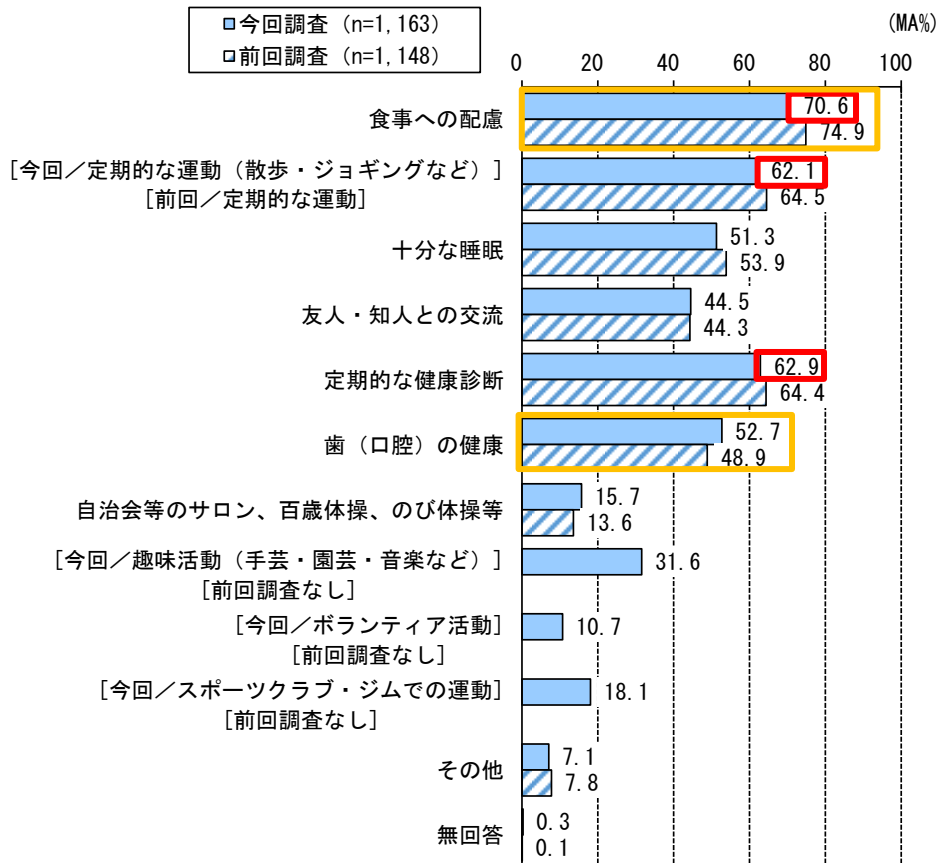
【介護予防・健康づくりの取組状況】



●問7.9-1 どのようなことに取り組んでいますか。(いくつでも○)

- 取り組んでいる介護予防の内容について、「食事への配慮」が70.6%で最も高く、次いで「定期的な健康診断」が62.9%、「定期的な運動（散歩・ジョギングなど）」が62.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「歯（口腔）の健康」の割合が上昇しています（48.9%→52.7%）。一方、「食事への配慮」の割合が減少しています（74.9%→70.6%）。
- 全体的に、割合が高い項目（「食事への配慮」「定期的な運動」等）について減少傾向にあるものの、大きな変化はありません。
- 5割以上の方が、「歯（口腔）の健康」について、介護予防の取組を行われています。

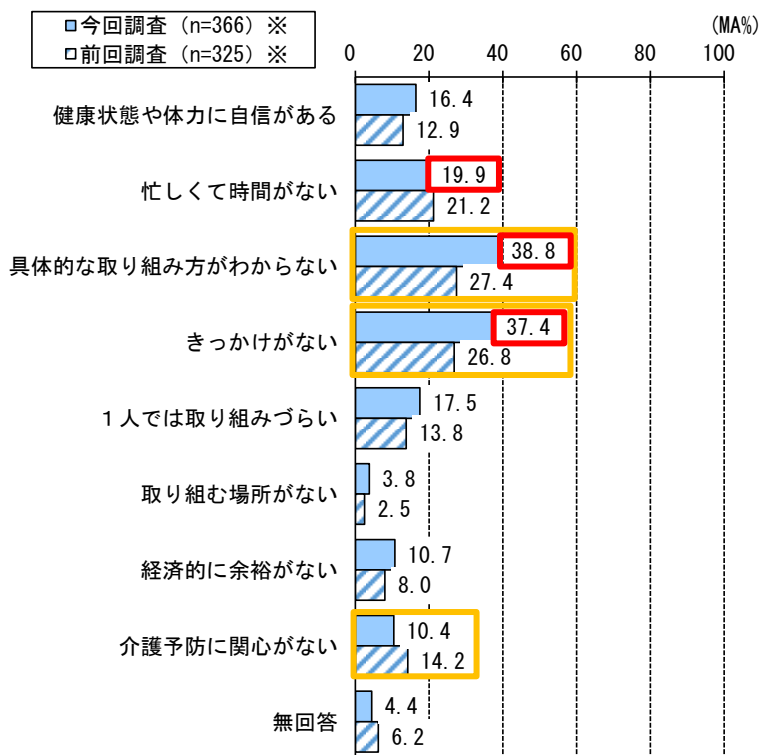
【取り組んでいる介護予防の内容】



●問7.9-2 介護予防や健康づくりに取り組まれていない理由は何ですか。(いくつでも○)

- 介護予防に取り組まない理由について、「具体的な取り組み方がわからない」が38.8%で最も高く、次いで「きっかけがない」が37.4%、「忙しくて時間がない」が19.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「具体的な取り組み方がわからない」の割合(27.4%→38.8%)や、「きっかけがない」の割合(26.8%→37.4%)が上昇しています。一方、「介護予防に関心がない」が減少しています(14.2%→10.4%)。
- 全体的に、「介護予防に関心がない」の割合は減少していますので、介護予防の意識は上昇傾向にあるものの、様々な理由で介護予防に取り組めない事情があると思われます。

【介護予防に取り組まない理由】



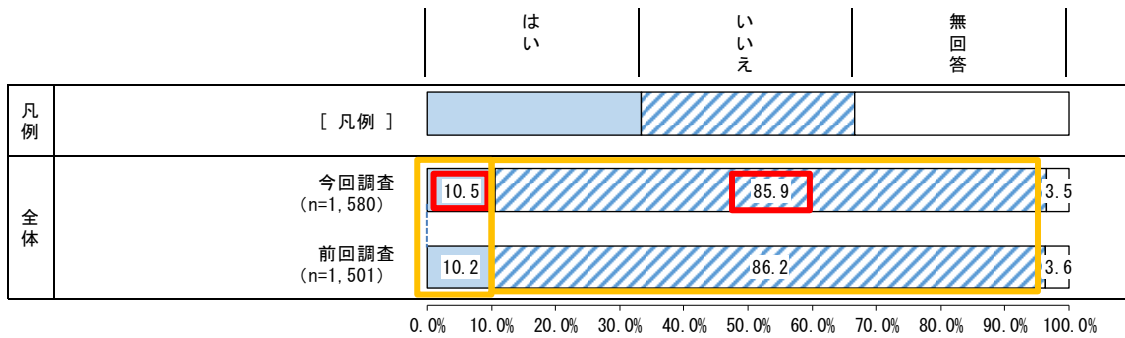
注) 回答形式は、今回が複数選択、前回は2つまで選択となっています。

7. 認知症について

- 問8.1 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

- 本人・家族における認知症症状の有無について、「はい」が10.5%、「いいえ」が85.9%となっています。
- 前回調査と比べ、「はい」の割合が上昇しています(10.2%→10.5%)。一方、「いいえ」の割合が減少しています(86.2%→85.9%)が、大きな変化はありません。

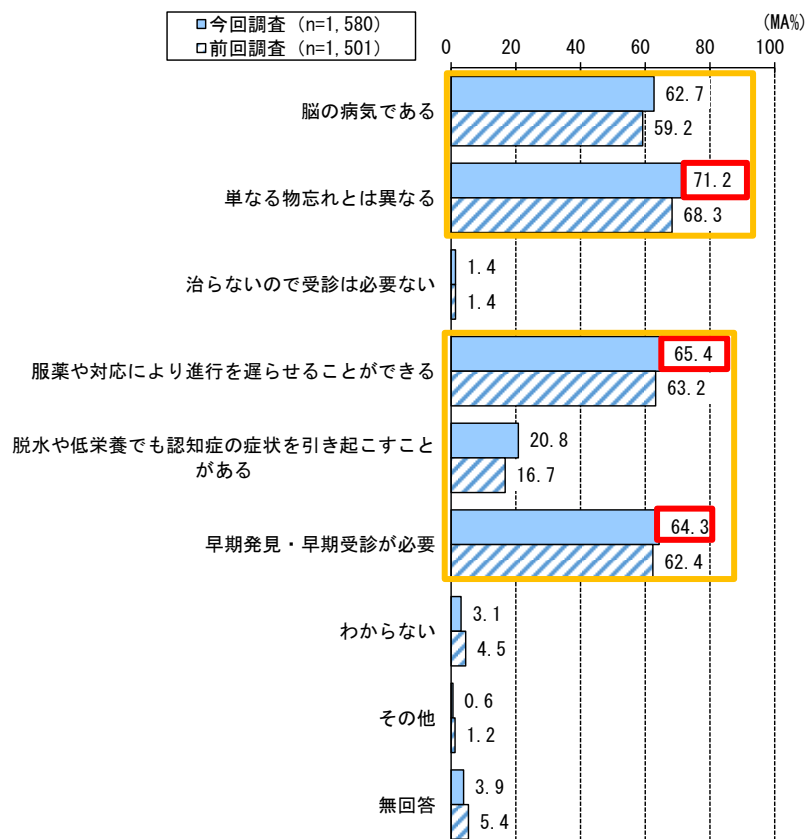
【本人・家族における認知症症状の有無】



- 問8.2 認知症について、どのように理解していますか。(いくつでも○)

- 認知症に対する理解度について、「単なる物忘れとは異なる」が71.2%で最も高く、次いで「服薬や対応により進行を遅らせることができる」が65.4%、「早期発見・早期受診が必要」が64.3%となっています。
- 前回調査と比べ、全体的に、各項目の割合が上昇していますので、認知症に対する理解度は高くなっていると想定されます。

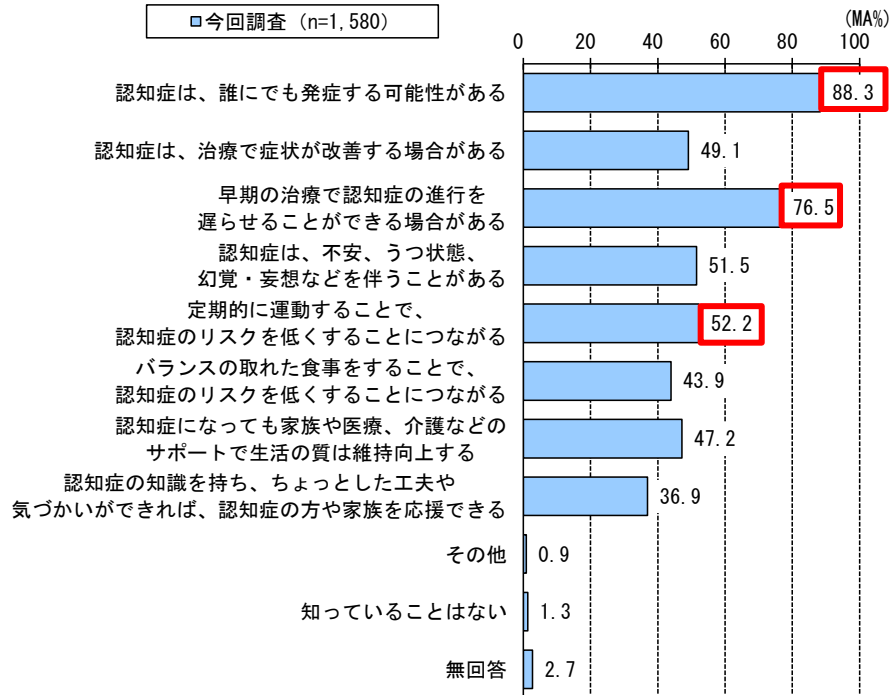
【認知症に対する理解度】



●問8.3 認知症について、あなたが知っていることは何ですか。(いくつでも○)

- 認知症について知っている知識について、「認知症は、誰にでも発症する可能性がある」が88.3%で最も高く、次いで「早期の治療で認知症の進行を遅らせることができる場合がある」が76.5%、「定期的に運動することで、認知症のリスクを低くすることにつながる」が52.2%となっています。

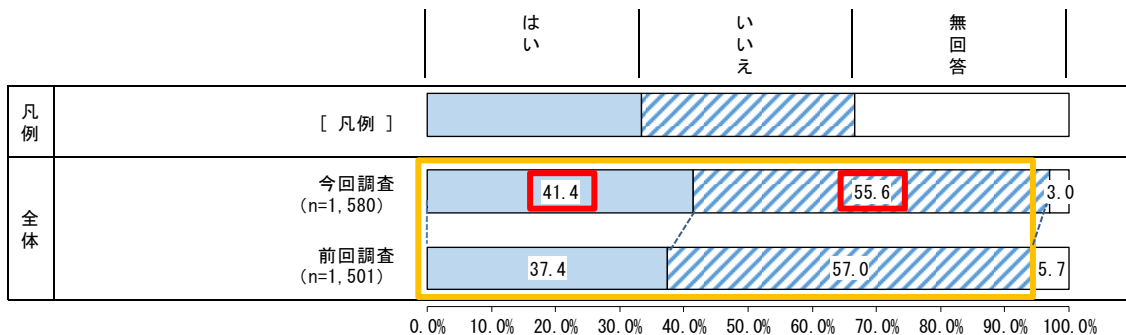
【認知症について知っている知識】



●問8.5 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 認知症相談窓口の認知度について、「はい」が41.4%、「いいえ」が55.6%となっています。
- 前回調査と比べ、認知症相談窓口の認知度は上昇しています (はい : 37.4%→41.4%、いいえ : 57.0%→55.6%)。

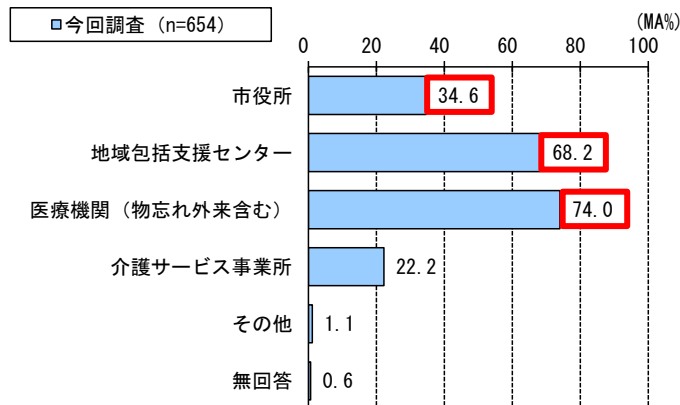
【認知症相談窓口の認知度】



●問8.5-1 知っている相談窓口はどのようなものですか。(いくつでも○)

- 認知している相談窓口の種類について、「医療機関（物忘れ外来含む）」が 74.0%で最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 68.2%、「市役所」が 34.6%となっています。

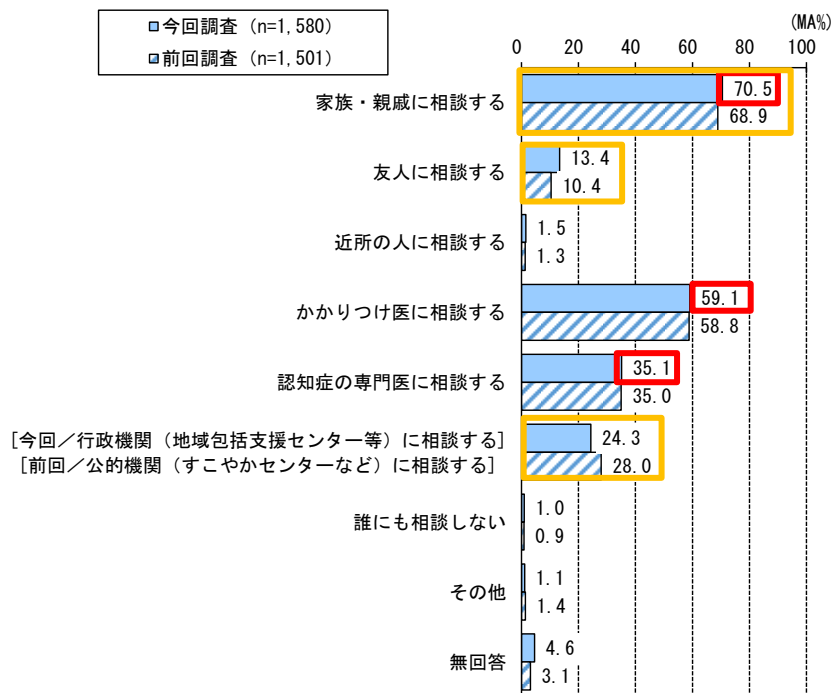
【認知している相談窓口の種類】



●問8.6 あなたが、認知症かも？と悩んだ時は、どちらに相談されますか。(いくつでも○)

- 認知症に関する相談先について、「家族・親戚に相談する」が 70.5%で最も高く、次いで「かかりつけ医に相談する」が 59.1%、「認知症の専門医に相談する」が 35.1%となっています。
- 前回調査と比べ、「友人に相談する」の割合が上昇しています (10.4%→13.4%)。一方、「行政機関（地域包括支援センター等）に相談する」の割合が減少しています (28.0%→24.3%)。
- 全体的に、「家族・親戚」「友人」など身近な人への相談が上昇傾向にあります。

【認知症に関する相談先】

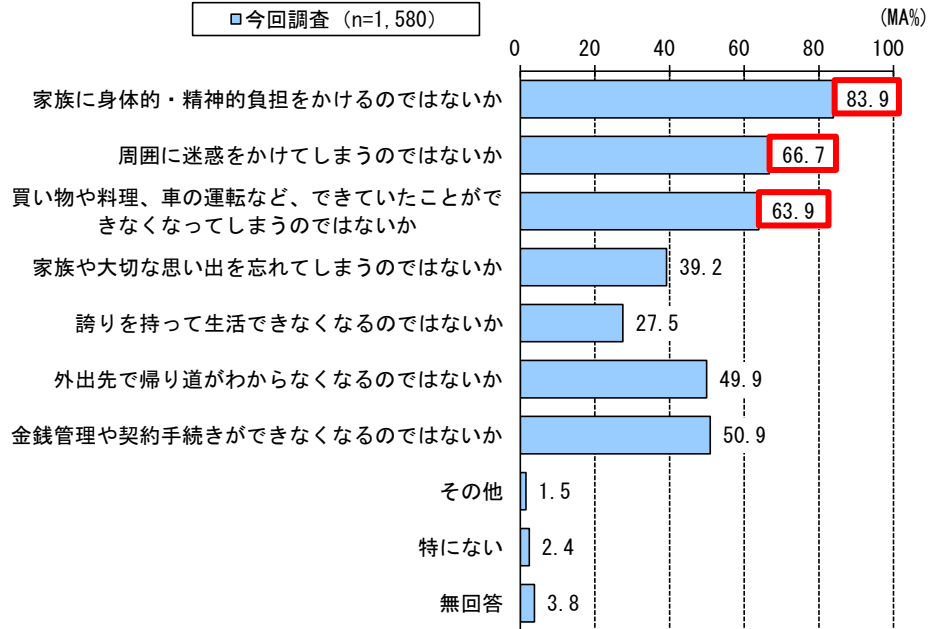


新

●問8.8 あなたが認知症になった場合、どのような不安がありますか。(いくつでも○)

○ 認知症になった場合の不安要素について、「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」が83.9%で最も高く、次いで「周囲に迷惑をかけてしまうのではないか」が66.7%、「買い物や料理、車の運転など、できていたことができなくなってしまうのではないか」が63.9%となっています。

【認知症になった場合の不安要素】

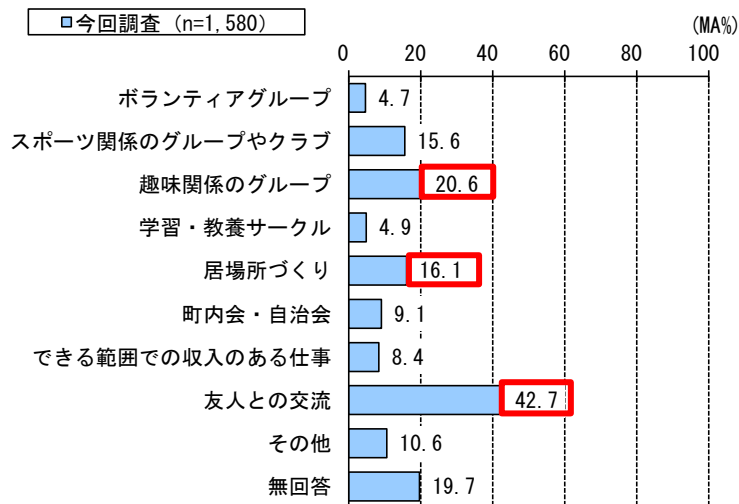


新

●問8.9 あなたが認知症になった場合でも、続けたい活動はありますか。(いくつでも○)

○ 認知症になっても継続したい活動について、「友人との交流」が42.7%で最も高く、次いで「趣味関係のグループ」が20.6%、「居場所づくり」が16.1%となっています。

【認知症になっても継続したい活動】

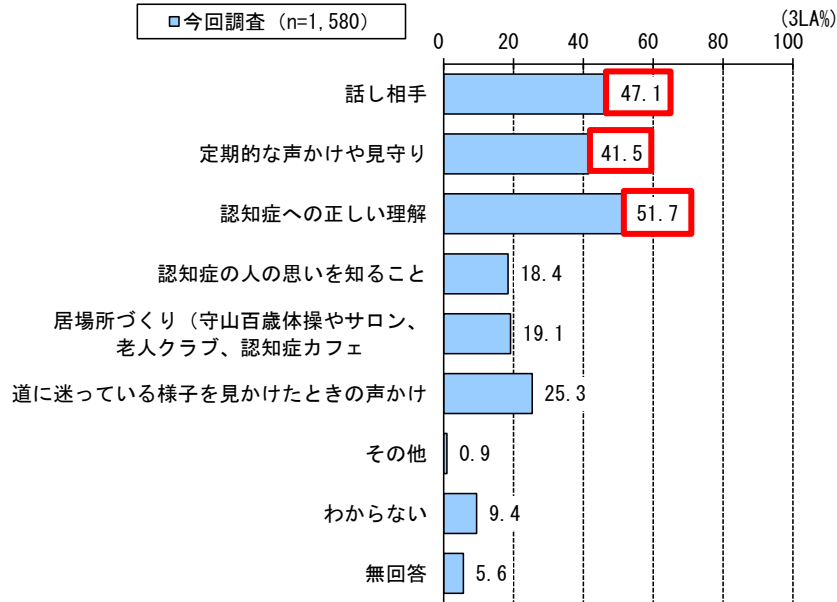


新

●問8.10 あなたが認知症になった場合でも、住み慣れた地域で暮らしていくためには、特にどのような地域住民の協力があると助かると思いますか。(〇は3つまで)

○ 住み慣れた地域で暮らすための住民協力について、「認知症への正しい理解」が51.7%で最も高く、次いで「話し相手」が47.1%、「定期的な声かけや見守り」が41.5%となっています。

【住み慣れた地域で暮らすための住民協力】

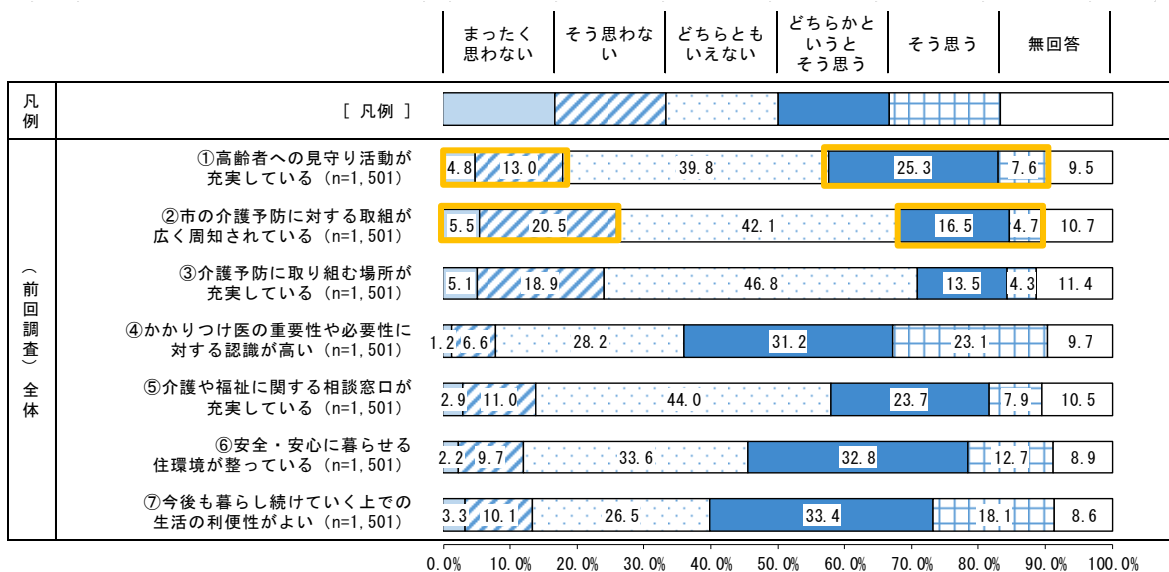
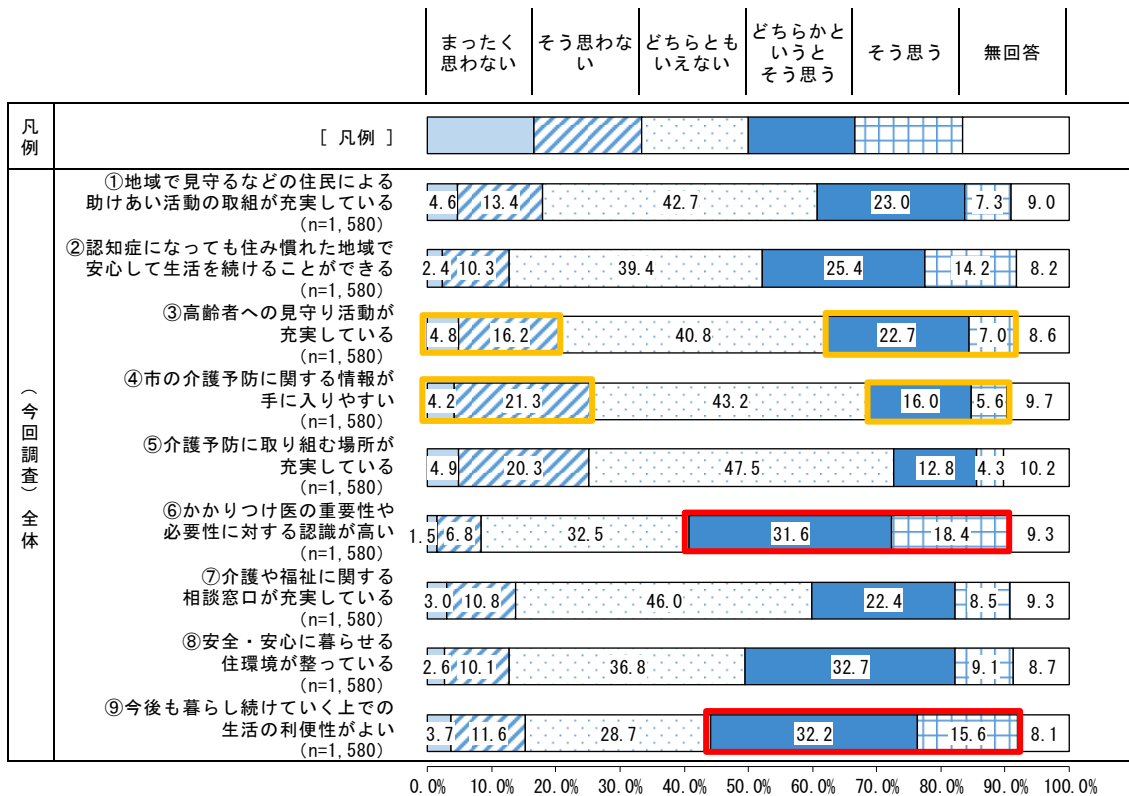


8. 地域における暮らしについて

- 問9.1あなたが住んでいる地域について「感じること」は何ですか。それぞれの回答欄にあてはまるものをお教えてください。(それぞれ○は1つ)

- 地域環境の現状について、「どちらかというと思う」「そう思う」の“そう思う”が最も多いのは、「⑥かかりつけ医の重要性や必要性に対する認識が高い」で50.0%、次いで、「⑨今後も暮らし続けていく上での生活の利便性がよい」が47.8%となっています。
- 前回調査と比べ、「どちらかというと思う」「そう思う」の割合が高く、「そう思わない」「まったく思わない」の割合が低いのは、「市の介護予防に対する取組が広く周知されている」となっています（「そう思う」21.2%→21.6%、「そう思わない」26.0%→25.5%）。
- また、「どちらかというと思う」「そう思う」の割合が低く、「そう思わない」「まったく思わない」の割合が高いのは、「高齢者への見守り活動が充実している」となっています（「そう思う」32.9%→29.7%、「そう思わない」17.8%→21.0%）。

【地域環境の現状】

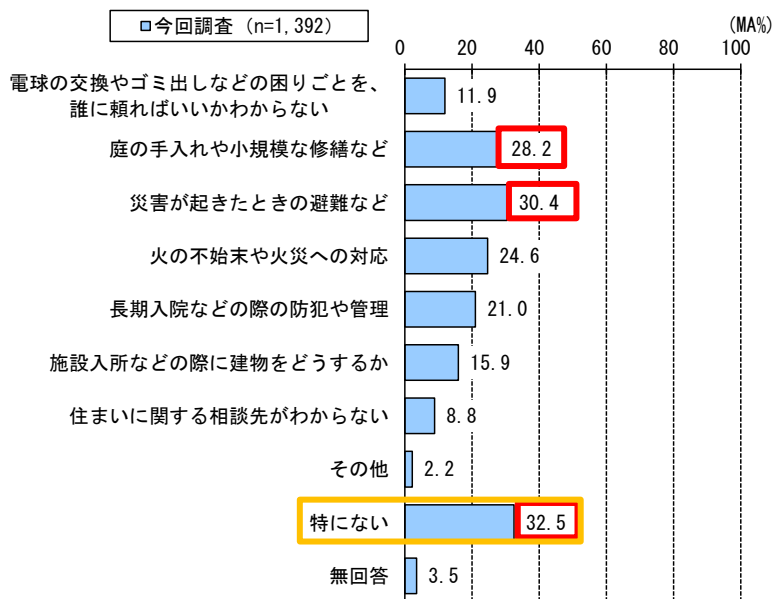


●問9.2-1 将来のお住まいについて、不安に感じていることはありますか。(いくつでも

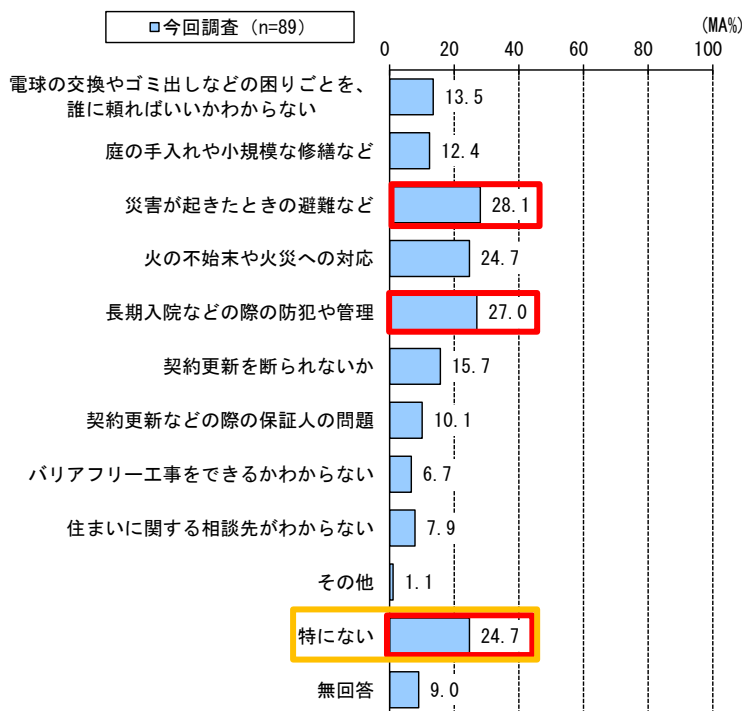
○) (持ち家の方・賃貸の方)

- 持ち家の方は、「特にない」が32.5%で最も高く、次いで「災害が起きたときの避難など」が30.4%、「庭の手入れや小規模な修繕など」が28.2%となっています。
- 賃貸の方は、「災害が起きたときの避難など」が28.1%で最も高く、次いで「長期入院などの際の防犯や管理」が27.0%、「特にない」が24.7%となっています。
- 全体的に、持ち家の方と賃貸の方を比較して、大きな差はありませんが、持ち家の方は「特にない」の割合が高く、将来の住まいに対する不安要素が少ない傾向にあると思われます。
- 一方、賃貸の方は、「長期入院などの際の防犯や管理」の割合が高いため、近くに身近な家族等の支援が少ない傾向にあると思われます。

【将来の住まいに対する不安要素（持ち家）】



【将来の住まいに対する不安要素（賃貸）】

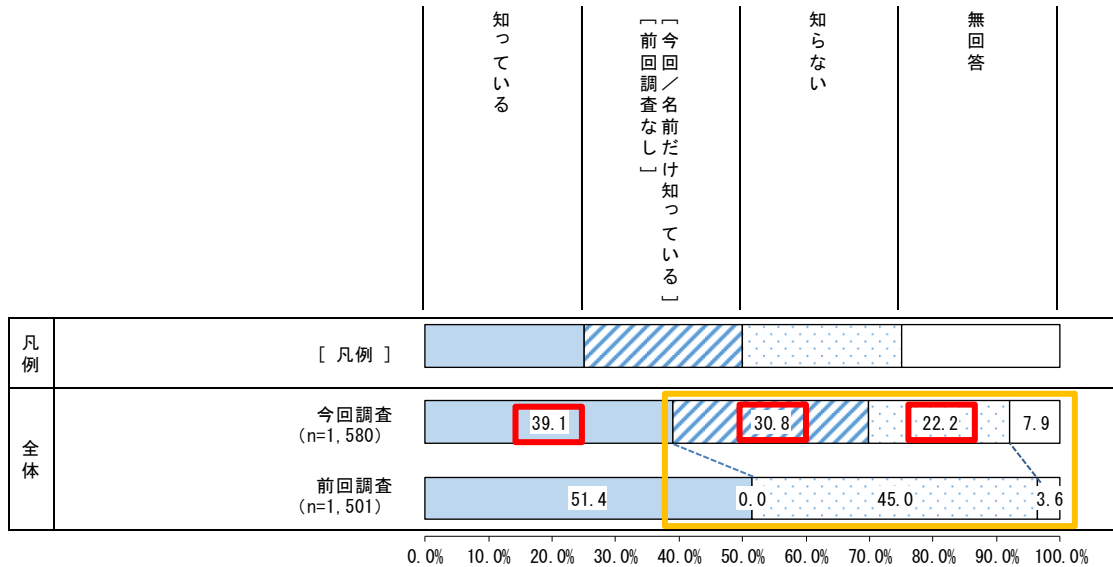


9. 地域包括支援センターについて

●問11.1 地域包括支援センターを知っていますか。(○は1つ)

- 地域包括支援センターの認知度について、「知っている」が39.1%で最も高く、次いで「名前だけ知っている」が30.8%、「知らない」が22.2%となっています。
- 前回調査と比べ、「知っている」と「知らない」の割合が減少しています（「知っている」51.4%→39.1%、「知らない」45.0%→22.2%）。
- 全体的に、新たに選択肢とした「名前だけ知っている」が「知らない」に含むと考えますと、「名前だけ知っている」と「知らない」を合わせた割合が5割以上を占めています（51.4%）。

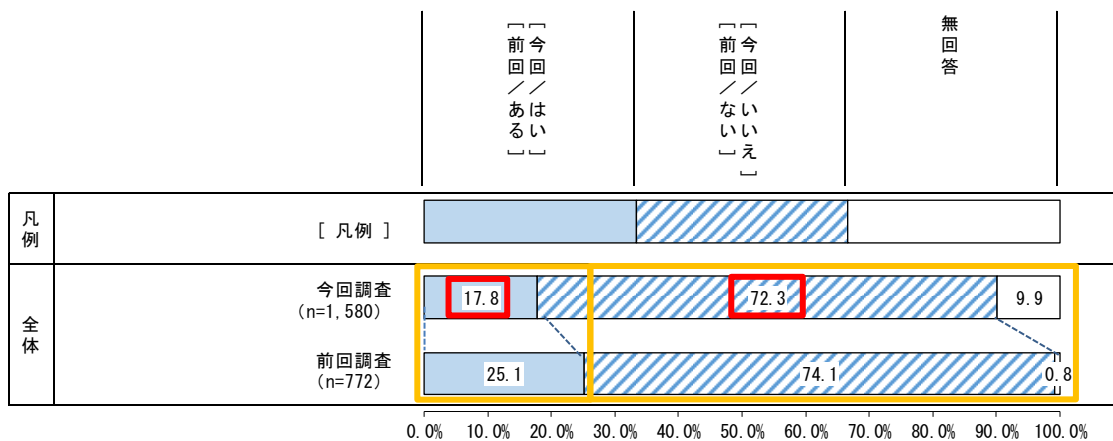
【地域包括支援センターの認知度】



●問 11.1-3 地域包括支援センターを利用したことはありますか。(○は1つ)

- 地域包括支援センターの利用経験について、「はい」が17.8%、「いいえ」が72.3%となっています。
- 前回調査と比べ、利用経験「あり」「なし」の割合がどちらも減少しています（「あり」25.1%→17.8%、「なし」74.1%→72.3%）。

【地域包括支援センターの利用経験】

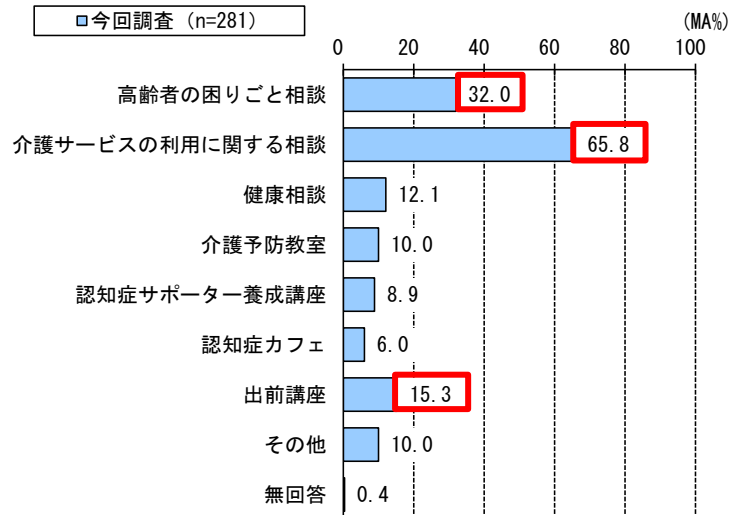


新

●問11.1-4 どのような用件で利用しましたか。(いくつでも○)

○ 地域包括支援センターの利用目的について、「介護サービスの利用に関する相談」が65.8%で最も高く、次いで「高齢者の困りごと相談」が32.0%、「出前講座」が15.3%となっています。

【地域包括支援センターの利用目的】

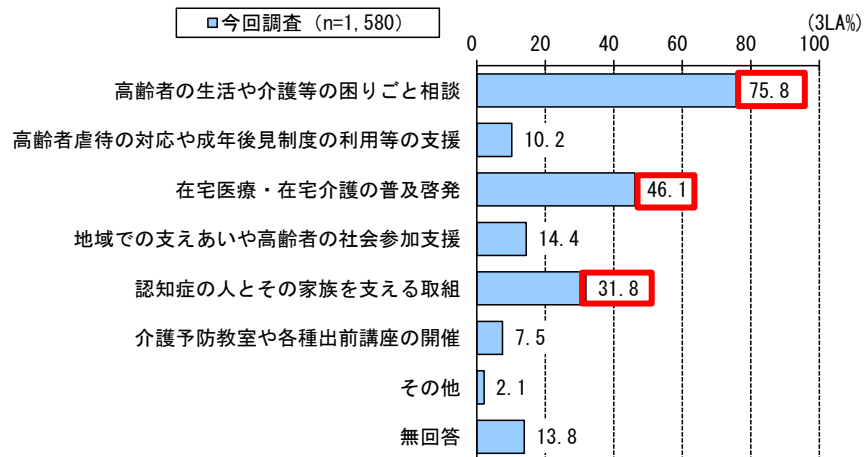


新

●問11.1-6 地域包括支援センターに期待することは特に何ですか。(○は3つまで)

○ 地域包括支援センターへの期待について、「高齢者の生活や介護等の困りごと相談」が75.8%で最も高く、次いで「在宅医療・在宅介護の普及啓発」が46.1%、「認知症の人とその家族を支える取組」が31.8%となっています。

【地域包括支援センターへの期待】

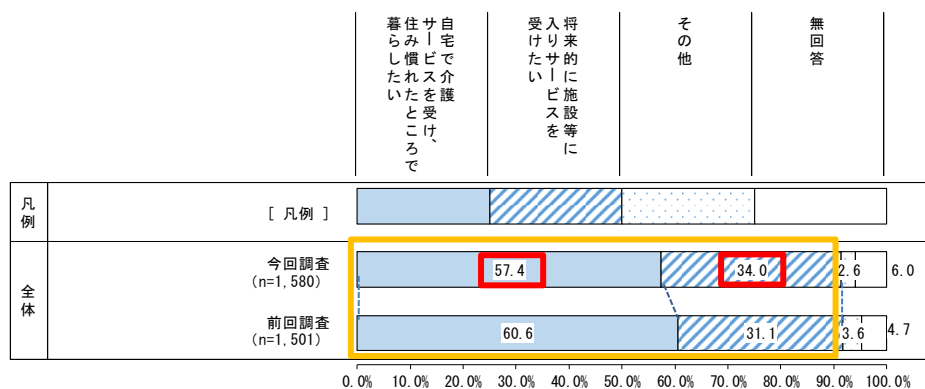


10. 介護保険制度・サービスについて

- 問12.1 あなたご自身が要介護状態になった場合、どのようにしたいと思いますか。(○は1つ)

- 要介護状態になった場合の希望について、「自宅でサービスを受けて暮らしたい」が57.4%、「施設等に入りサービスを受けたい」が34.0%となっています。
- 前回調査と比べ、「施設等に入りサービスを受けたい」の割合が上昇しています(31.1%→34.0%)。一方、「自宅でサービスを受けて暮らしたい」の割合が減少しています(60.6%→57.4%)。
- 全体的に、「施設等に入りサービスを受けたい」の割合が上昇していますが、「自宅でサービスを受けて暮らしたい」の割合が5割以上を占めています。

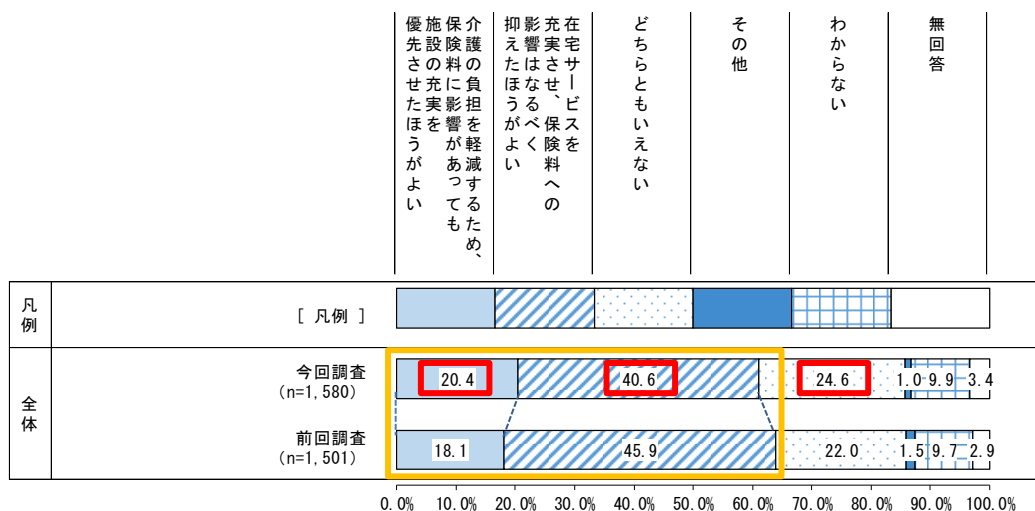
【要介護状態になった場合の希望】



- 問12.3 今後、高齢化が進み、高齢者が増えていくと、介護保険施設（特別養護老人ホーム等の入所施設）が不足することも想定されます。入所施設が増えると保険料への影響が大きくなりますが、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- 施設整備と保険料負担に関する考え方について、「在宅サービスを充実し保険料への影響は抑える」が40.6%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が24.6%となっています。
- 前回調査と比べ、「施設の充実」の割合が上昇しています(18.1%→20.4%)。一方、「在宅サービスの充実」の割合が減少しています(45.9%→40.6%)。
- 全体的に、「施設の充実」が上昇傾向にあります。4割以上が「在宅サービスの充実」を希望されています。

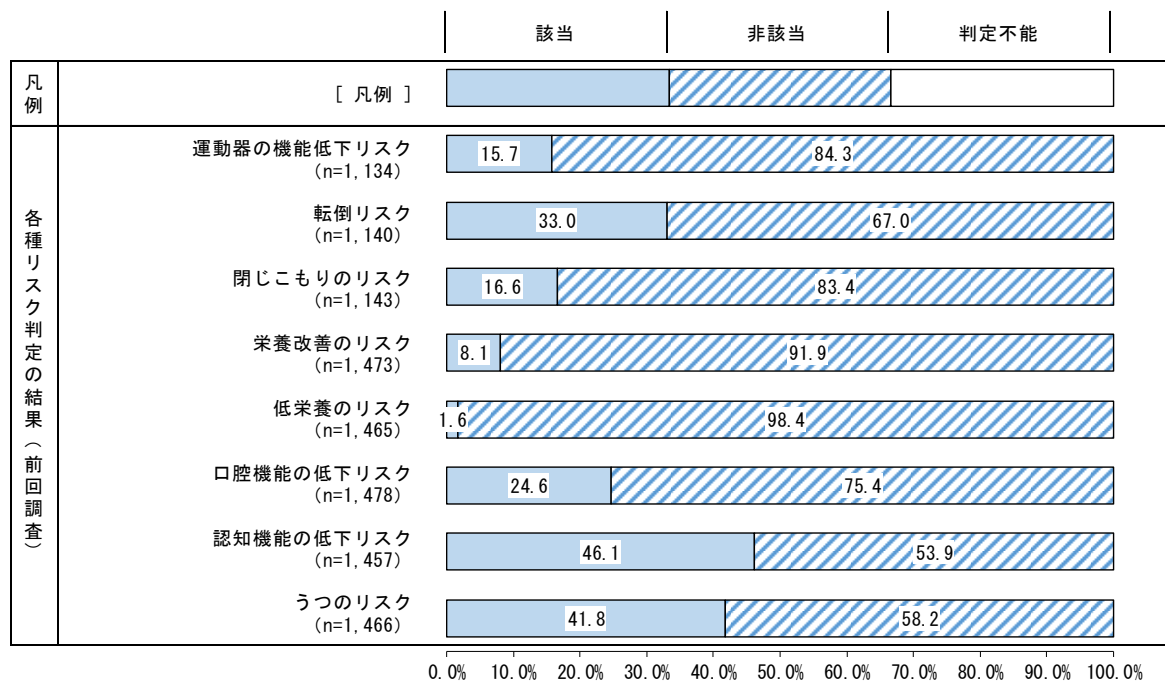
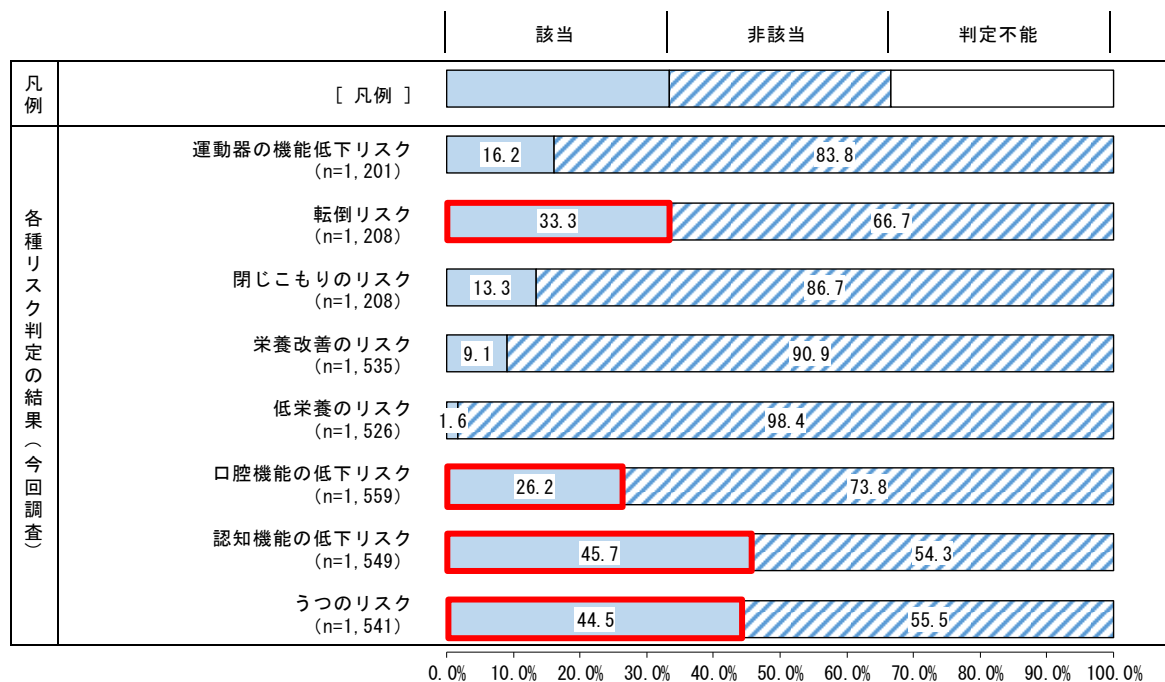
【施設整備と保険料負担に関する考え方】



各種リスク判定結果

- 認知機能の低下リスク（45.7）、うつリスク（44.5%）では、「該当」が4割を超え多くなっています。
- また、転倒リスクでは3人に1人、口腔器の機能低下リスクでは4人に1人が「該当」となっています。

【各種リスク判定の結果】



◆各種リスク等の判定方法

●運動器の機能低下リスクの判定方法：以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合

設問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／やや不安である

●転倒リスクの判定方法：以下の設問に対して該当する場合

過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
-------------------	------------

●閉じこもりのリスクの判定方法：以下の設問に対して該当する場合

週に1回以上は外出していますか	ほとんど外出しない／週1回
-----------------	---------------

●口腔機能の低下リスクの判定方法：以下の設問に対して3問中2問該当する場合

【咀嚼機能低下】半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	はい
【嚥下機能低下】お茶や汁物等でむせることがありますか	はい
【肺炎発症リスク】口の渇きが気になりますか	はい

●栄養改善のリスクの判定方法：以下の設問に対して該当する場合

身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷身長（m） ² ）	18.5未満
---	--------

●低栄養のリスクの判定方法：以下の設問に対して2問中2問該当する場合

身長・体重から算出されるBMI（体重（kg）÷身長（m） ² ）	18.5未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	はい

●認知機能の低下リスクの判定方法：以下の設問に対して該当する場合

物忘れが多いと感じますか	はい
--------------	----

●うつ病のリスクの判定方法：以下の設問に対して2問中いずれか1つでも該当する場合

この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	はい
この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	はい